



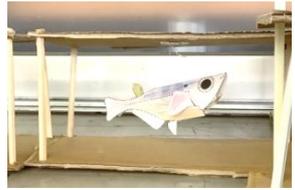
## メダカのペーパークラフト。～ゆらゆら泳ぐ私の部屋で～

5年生の1学期の単元学習は、メダカの卵から孵化、そして稚魚を成魚まで育てながら観察して終了です。今も、毎朝、理科室のカギを取りに来ては、エサやりを続ける5年生の児童。ペットボトル水槽を眺めながら、メダカと対話している様子が分かります。一日のスタートを理科室のメダカと共に。すくすく育つ稚魚の体の大きさの変化に気づく5年生。南郷里小学校に常時メダカのビオトープにたくさんのメダカが泳ぐ日を夢見て、数年かけてメダカの飼育を続けていきたいと思えます。1年は組の奥の扉の向こうにある旧ウサギ小屋には、昨年たくさんの卵を産んだ親メダカが寒い冬を越し、今も元気よく泳いでいます。



メダカのエサやりの風景

授業では、ペーパークラフトに取り組んでいます。オスメスの違いを振り返りながら、ヒレの長さ形を自由に変え、体の着色も自分思いの色に。去年は、全て段ボールで作った水槽の枠を、今年は、割り箸やストローで上部に、そしてレトロに仕上げました。



## なぜきれいな池がにごったの？ ～生態系と環境の変化を読み解く～



6年生「生き物のくらしと環境」の学習では、毎年の時事ニュースから導入に入っています。今年は、こんなニュースがありました。7月2日(日)神戸新聞の記事です。子どもたちの人気者アメリカザリガニが「条件付特定外来生物」とし

て、過去に例のない飼育可能のままの指定となりました。しかし、放流、販売、購入は罰則。一度飼えば自然に戻すことはできません。2年生の生活科の授業も十分に注意が必要です。

結論は、アメリカザリガニが増えたことが、池の沼地化を引き起こしました。児童からは、大雨、土砂の流入、ゴミ問題、洗剤の流入、外来魚(ブラックバス・ブルーギル)等の予想が出ました。水草の消失に気づき、生き物が減ったのではなく、逆に水草を食べてしまう生き物が増えたことが原因だと知って、ほとんどの児童が納得したと思えます。生態系が壊れる原因を、写真やニュース記事から対話的に読み解いていきました。

「アメリカザリガニ」増えすぎ放流禁止に アカミミカメも 違反者に罰則 生態系に影響「条件付き」規制強化

神戸新聞NEXT

7/2(日) 10:00

短脚の子どもたちに人気を博した生き物2種が今年6月から、野放流禁止になった。「アメリカザリガニ」と「アカミミカメ(ミドリガメ)」。いずれも外国から持ち込まれた。あまりに増えてきた生態系を脅かしたため、環境省が最前線の「条件付き」規制に決断。放流や販売ができなくなった。違反した場合は罰則が科される。注目したい。

【写真】子どもたちの人気者、アメリカザリガニ

両国によると、大きなアメリカザリガニが繁殖するアメリカザリガニは1921年の来として輸入された。それが東洋から運ばれてきた。川や池でも「ザリガニ祭り」ができる状態に。しかし、水生植物や虫を食べてしまう生き物が減らされた。

アカミミカメも50年代、「ミドリガメ」として輸入された。増えすぎたため、環境省が規制を強化し、放流や販売を禁止した。増えすぎた生き物を放流してはいけない。

この2種はともなう繁殖力が高い。飼育しなくても「特定外来生物」に指定されると、池に川に落ちた生き物が増える。そのほか、両国は人に傷を負わせない「条件付特定外来生物」として、飼育は可能とした。ほか、飼育や放流も厳格に規制される。一方で放流や販売、購入などが禁止された。増えすぎた生き物を放流してはいけない。

